

JSCA九州 1/1版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部

TEL 092-406-7204 / FAX 092-406-7214

Web Site : <http://jscakyushu.jp/>

E-mail : info@jscakyushu.jp

2019年巻頭言



2019年新年のご挨拶

2019年 1月 JSCA九州支部長 原 英基

JSCA九州支部会員の皆様 新年あけましておめでとうございます。

2019年JSCAは法人化30周年を迎えます。前身の構造家懇談会（1981年設立）までさかのぼると38年となります。この間「構造家」は「構造技術者」となり「構造設計一級建築士」なる制度も出現し、取り巻く環境は時代の要請にもこたえながら変化を遂げてきました。

九州支部は約380名の会員で構成され、関東支部・関西支部・中部支部に続く会員規模となりました。会員の皆さんの活発な活動により社会的にも次第に認知され、それと同時に責任も大きくなりつつあると感じています。

30周年の節目に、個人的には思い入れの深い企画・事象が二つ予定されています。

一つはJSCA九州支部の功労者表彰です。持続可能な組織を目指して幹部の若返りを進めてきましたが、同時にシニアアドバイザー一部会の新設でベテランとの役割分担ができるきっかけとなりつつあります。この時期に、長きにわたり九州の構造技術者の社会的地位向上のため貢献いただいた方々に敬意を表する機会が設けられることは大変意義深いことと考えています。30周年記念事業の一環として実施されますのでJSCA九州のこれまでの道のりを振り返る機会にもなるものと期待しています。

二つ目は九州設計3団体懇談会（建築士会・建築士事務所協会・建築家協会）の枠組にJSCA九州が今年から正式参加することとなったことです。九州各県の設計関連団体が、地震災害に代表される緊急時に緊密な連携をとって対応していくことを一つの核として結成された懇談会です。熊本地震において、各県・各団体の連絡体制が整っていればよりの確な支援ができたのではないかと、という反省がきっかけでした。各地区においてはこれまでも関連団体と協力した講習会や行政行事が行われてきたことと思います。今後は地域連携（関連団体・行政）をさらに深め九州全体のネットワークの中でJSCAも積極的にその役割を担っていくこととなります。地区会の皆さんには趣旨をご理解いただきご協力をお願いしたいと思います。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年。JSCA九州にとってはJSCA構造デザイン発表会in沖縄の年です！！今年2019年で30周年を締めくくり、新たな時代に漕ぎ出していくJSCA九州にとってはジャストタイミングなイベントであると大いに期待をしています。今年も微力ながら精いっぱい頑張ります。皆様のご協力をよろしく願いいたします。

新年を迎えて



副支部長 今林 光秀

JSCA九州会員の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

副支部長となって早いもので2年目が過ぎようとしており、原支部長はじめ会員の皆様方と一緒にJSCA九州の様々な活動に参加できることを心よりありがたく思っております。昨年は、6月に長崎で空間構造講演会「美しい張弦梁のはなし」を著名な斎藤公男先生をお招きして大成功に行いました。斎藤先生より「JSCA九州は地区会も元気に活動していて素晴らしいね。」とお褒めの言葉を頂くことができ、長崎地区会の皆様には改めてお礼申し上げます。7月の鹿児島での支部役員会では、鹿児島大学塩屋晋一先生の講演も興味深く、とても意義のある役員会でした。鹿児島地区会の皆様ありがとうございました。

今年はJSCA30周年を迎え11月にはJSCA九州でもイベントを企画しており、素晴らしい催しになるよう皆で一緒に頑張りましょう。また、2020年JSCA構造デザイン発表会は九州支部開催となり沖縄で行うことが決まり、その準備もすでに始まっているところです。

本年も皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。よろしく願いいたします。



副支部長 重松 正幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国的に建築需要が増える中、構造設計に携わる会員の皆様方も、毎日忙しい日々をお過ごしのことと思います。その様な状況の中、JSCA九州の活動に参加頂き、お世話になりました皆様方へお礼を申し上げます。

私自身は気がつくと10年近く支部活動に携わり、昨年より副支部長として活動させて頂き少し違う景色を見ることが多い1年でした。

昨年本欄において青年部部会長として「若手技術者が不足することに真剣に目を向けなければなりません。」と申し上げましたが、原支部長と大塚前副支部長を中心とした先輩方の御尽力によりシニアアドバイザー一部会が発足したことに大きな期待を抱いています。熟練の先輩方と若手技術者や学生との交流の場が、未来の構造技術者の育成と確保につながる機会になると思っています。

さて、元号は平成の三十年間を終えようとしています。不況の厳しさ、多くの天災、法改正にもつながった人災など多くの暗い面が多かったと感じる反面、これからの時代に希望を持つべき変わり目であると信じ自分達で明るい時代を作っていかなければならないと思っています。まずは、「2019年のJSCA30周年イベント」、「2020年のJSCA構造デザイン発表会」とJSCA九州では特別なイベントが続きます。会員の皆様にとって、有意義なイベントとするべく取り組んでいきたいと思っています。最後に、JSCA九州会員の皆様の健康とより一層のご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

技術委員会



技術委員長

(有)広岡建築事務所 松下 淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

2018年は国内で地震・風水害など大規模な自然災害が続いた年でした。それに加え人災とも言える事故や不祥事も起きました。これらは建築構造に係る事象も少なからず発生しています。

前者の自然現象に起因する災害に対しては、それを適切に理解して、正しく準備することが重要だと思います。後者については技術者の心構えや倫理の問題であり、皆で共有していきたいものだと思います。

私個人もこれらを勉強し身に着けていきたいと思っています。またJSCA九州の活動がそのような場になれば、構造に係る問題を少なくできるものと思います。

今年は本部の報告会等を、九州内の会場で同時中継受講ができるよう考えています。最初は試行のようになるかもしれませんが、よろしくお願ひします。またJSCA九州でも各部会により多くの活動が行われることと思います。

皆様のご参加とご協力・ご支援を今年もどうぞお願ひ申し上げます。

設計規準系部会



設計規準系部会長

(株)織本構造設計 都筑 清

新年あけましておめでとうございます。

早いもので設計規準系部会長を担当させていただいてから今年で3年目となりました。会員皆様のご協力で改めてお礼申し上げます。

昨年の設計規準系部会の活動は、6月に鋼構造物の座屈に関する講習会を開催、また9月には福岡県の適合性判定機関との意見交換会開催のご協力をさせて頂きました。年度内にも昨今の鋼材不足を見据えた勉強会を予定しています。

大阪北部地震、西日本豪雨、大型台風など、残念ながら昨年も死者を伴う災害が発生しました。免震装置データ改ざんも公表され、またしても品質管理やコンプライアンスを問われ建築業界の信頼性を揺るがす事案もありました。

今年の建築業界はまだ堅調かと感じますが、信頼回復、資材不足、若手技術者不足など乗り越えるべき難題は多く存在します。JSCAの活動によってこれらの難題を解決するお手伝いが少しでもできるよう努力していきたいと思っています。

本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。

応答制御設計部会



応答制御設計部会長

エス・エー・アイ構造設計(株)

上野 敏範

皆様、新年あけましておめでとうございます。

応答制御設計部会では、免震構造や制振構造を、特殊なものとするのではなく、一般化することを目標に活動しております。昨年は、賛助会の免制振デバイスメーカーご協力のもと、パネル展示や免震体験車の試乗会を共催しました。2回開催した試乗会では、多くみなさまに、「耐震構造」「免震構造」の建物の揺れ具合の差を体験していただき、言葉だけでは伝わりにくい建物の耐震性能について知っていただく機会を提供できました。

また、比較的少人数での勉強会をスタートし、この勉強会で扱うテーマについても意見交換し、次年度のテーマを選定することができました。

本年は、昨年に引き続き、免震体験車の試乗会や勉強会（JSCA 性能設計、設計用入力地震動と地盤調査、告示免震設計など）を開催する予定です。また、他の部会と共同で免制震建物の見学会開催を計画しております。皆様のご理解とご協力、どうぞ宜しくお願い致します。

■免制震用ダンパーデータ改ざんに関して

一連の報道で、「機能維持が問題」と、NHK 時論公論が紹介していました。

ご参照ください。<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/307531.html>

「ダンパーデータ改ざん 問題の本質は」（時論公論）2018年10月18日（木）中村幸司解説委員

基礎地盤系部会



基礎地盤系部会長

イン・オリジン一級建築士事務所

小林 弘典

謹んで新年のお慶び申し上げます。

問題に対して答えを導くことを「解く」と言い、解けた時には気持ち良く満足感が得られますが、そのためには問題設定が適切である必要があります。しかし実際の設計においては、施主要望、経済性、デザイン、敷地条件、安全性、施工性など多様な問題に対して、様々な仮定と妥協をした上で、それなりの答えを出すのが精一杯、明快に解ける場合は稀かもしれません。更に近年は問題の種類が増え、担い手不足、材料不足などの業界内の不安定さ、何よりも安全にかかわる信頼性の失墜は業界の枠からはみ出た大きな問題です。「信頼」は社会が我々設計者に一番に期待するものであるにも関わらず、天災のみでなく自らが問題を作ってしまう環境に新たな問題を感じます。問題は混沌として解くには時間がかかるかもしれない、一つ解けば別の問題が出てくるかもしれない、一人で解けないのであれば仲間と難問に向かい合う。そんな JSCA の活動の一端を担える様、微力ながら頑張ります。本年もよろしくお願い致します。

鉄筋コンクリート系部会



鉄筋コンクリート系部会長

(株)大林組 木村 正人

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、近年同様の地震・台風など自然災害の頻発や、労務不足に加え鋼材をはじめとする材料手配に苦慮する年でした。また、大きな事件として、検査データの改ざん等の「品質偽装」が年終盤に発覚し、私自身「ものづくり」の基本理念について再考する年末でした。

昨年の活動は、8月に「鉄筋コンクリート造におけるひび割れ低減勉強会」を開催し、多数の方にご参加いただきました。今年は、3月頃に応答制御部会と合同で、高層マンションの現場見学会を開催する予定にしています。

なお、今年の活動は、品質確保や労務不足対策に着眼し、研鑽の場を提供していきたいと考えております。また、会員の皆様が抱える疑問や問題を解決する場として、活用して頂ければと考えています。気軽に要望や意見をお聞かせください。

今年もご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

鉄骨系部会



鉄骨系部会長

ワンス設計事務所(株) 尾宮 洋一

今年は亥年です。十二支の「亥」は最終の年にあたります。でも、ただ最後と言う意味ではなく、来年から始まる新しい時代に向けての助走の年と考えた方が良いでしょう。

一昨年から続く、トランプ大統領の暴走は止まらず、世界状況は混乱を増し、その影響は全世界に伝染しているように見えます。日本国内は消費税増税を控え、どのような1年になるか予想しづらい年です。

建築業界は、それなりに活況ですが、鋼材やボルトの入手が困難な状況で、人手不足と相まって前途洋々と手放しに喜べるには至りません。

鉄骨部会では昨年10月、TMDによる制震補強工場の現場見学会を開催する予定でしたが、度重なる台風の影響で工事が遅延し、延期せざるを得ませんでした。参加希望者の方には申し訳ないと思っています。来年、3月初旬までには見学会を開催したいと考えます。

鉄骨部会は、会員各自が抱える鉄骨関連の疑問や問題を解決する場として、活用して頂ければと考えています。

また、シニア部会との協同で何か企画したいと考えておりますので、要望や意見をお聞かせください。本年も会員のみなさまも、健康には充分気をつけて、実りある1年を過ごしてください。

木質系部会



木質系部会長

(株)川崎構造設計 宮崎 大介

あけましておめでとうございます。

昨年4月より、木質系部会長を務めさせて頂くことになりました。宜しくお願い申し上げます。昨年10月には、熊本県立大学の北原教授に「平成28年熊本地震による木造建物の被害状況とその要因」という表題でご講演をして頂きました。

古い木造建築物でも倒壊したものと倒壊していないものの違い等を詳しく解説頂き、とても貴重な知見を得ることが出来ました。

昨今は、木材利用促進の観点から木造建築物に関する法律の規制緩和の流れが多くあるように感じます。日本全国において、CLTや4階建て以上の木造建築も増え、設計法の講習会や見学会等が、多く開催されております。

常に最新の情報に触れて、勉強会等を通じて皆様と知識を共有して行きたいと思っております。

特殊構法部会



特殊構法部会長

(株)ピーエス三菱 石井 孝幸

新年あけましておめでとうございます。

平素は特殊構法部会に関してご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、今年で特殊構法部会に名称・活動範囲が変わり3年目を迎えます。1年目の一昨年は、「プレストレストコンクリート構造設計の勉強会」、2年目の昨年は「ケーブル構造の勉強会」を開催できました。プレストレストコンクリートを中心とした活動から少しだけ範囲を広げることができたと考えています。

3年目の課題も、昨年に引き続き「他の部会に属さない特殊な構法、構造をテーマに広げる」を行います。皆さまの要望や意見などをお聞かせ下さい。

已然として、活動の中心はプレストレストコンクリート(PC)構造およびプレキャスト(PCa)構法に関する情報の提供になると思います。引き続き特殊構法部会運営に関しましてご支援をよろしくお願いいたします。

本年も皆様にとって、ご健勝ご多幸の1年になりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

耐震改修部会



耐震改修部会長

能勢建築構造研究所(株)

奥野 賢二

会員の皆様あけましておめでとうございます。

昨年の6月には大阪北部地震、9月には北海道で地震が発生し熊本地震からの復興も完了しないうちに大きな被害がもたらされました。

また、年明け早々の1月3日には熊本県で震度6の大きな地震が発生しましたが幸いなことに大きな被害が生じていないとの報道に安堵しているところでもあります。

地球が地震の活動期にあるのか頻繁に地震発生ニュースを目にしますが古い建物の耐震化は未だながら未着手のものが多く、特に古い住宅に対する耐震調査ならびに耐震補強が行われていないことは将来の大地震に対してのこれからの課題であると感じております。改修部会におきましては昨年勉強会を実施した木造建物に対する新しい耐震改修技術の紹介、又は天井についての勉強会等を開催するつもりでおりますので皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

シニアアドバイザー部会



シニアアドバイザー部会長

(株)竹中工務店

大塚 真裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、危険な暑さ、巨大台風、豪雨、地震、等々、「災」が「今年の漢字」に選ばれるなど、本当に災害の多い一年でした。何か、年々大きな災害が発生するような気がしますが、同時に想定を超える自然外力に対する備えの重要性を実感した年でもありました。

一方、物づくりの根幹を揺るがし、信頼を失墜するような行為も発覚し、改めて構造設計における性能信頼性についても考えさせられる年でもありました。

さて、昨年、九州支部にシニアアドバイザー部会が新設され、その部会長に就任致しました。現在、やっとコアメンバーを中心とする基盤ができつつあります。

会員が長くJSCA活動に係わっていただける活動の拠点として、会員相互の親睦をはかりつつ、皆さま方の豊富な経験を次世代に伝承するための活動を行って行きたいと思っております。

JSCA九州のネットワークをさらに強いものとするためにも、多くの皆さま方の参画をお願い致します。

会員委員会



会員委員長

(有)Y's 構造 横山 英一

新年明けましておめでとうございます。

一昨年に引き続き会員委員長を務め、微力ながら、皆様のお力添えにより昨年1年の活動を終えることができました。

昨年の11月22日に開催いたしました拡大役員会後の賛助会員様との懇親会におきましては、初めての取り組みとなりました前回より多くの方に参加していただくことができました。本年も役員及び賛助会員様のより有意義な交流の場となりますよう、尽力いたします。

また賛助会員に関しましては、2018年は3社の純増となりました。

今後も賛助会員の増強に努めるとともに、会員・賛助会員の皆様の交流促進を図る取り組みを進めていきたいと考えております。

皆様にとりまして実りある1年となりますようお祈り申し上げます。

本年も、何卒宜しくお願いいたします。

青年部会



青年部会長

(有)福岡構造 安達 亮平

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年の春から部会長として活動させて頂いております。若輩者でございますが、精一杯務めさせて頂きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の活動として、青年部会では過去7回に亘り九州各地の建物見学会を実施してきましたが、今回初めて九州を飛び出し、中国地方の建物見学会を実施しました。現地では中国地方の若手構造設計者の方々に懇親の場を設けて頂き、非常に楽しい交流を行うことができました。この会を契機として、2019年は関西・四国・中国・九州のオール西日本で交流を深めるイベントも計画中で、さらに構造設計者の輪が広がっていけばと思います。

今年の活動としては、これまでと同様に青年部会独自の勉強会や意見交換の場を設け、楽しみながら学び、切磋琢磨できるような活動を続けて行きたいと思っております。

最後になりますが、2019年はJSCA法人化30周年の年にあたり、青年部会はシニアアドバイザー一部会と協力して記念イベントの実行委員を務めさせて頂きます。実りあるイベントにしたいと思っておりますので、皆さまのご協力・ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

なでしこ会



なでしこ部会長

清水建設(株) 浅田 正子

あけましておめでとうございます。

平成最後の新年を迎え、新しい元号とともにやってくる新しい時代に期待しつつ、平成の30年を振り返ってみると、時代の流れが構造設計にも大きな波であったことが思い出されます。大きな地震が起きるたびに、厳しくなる規定とともに、建物は地震に対して耐えるものとなってきています。人命・財産の保護の観点では、建物は壊れないだけでは不十分で、地震後に日常に戻ることのできるものでなければいけない、という考え方も進化してきました。

この変化を体感してきた世代から、今実現しようとしている構造設計を学び始めた世代へと、世代交代が進む中、今年はなでしこ会もさらに若返りを図り、新しいメンバーの加入や活動の幅を広げていきたいと思えます。昨年は、自主的な勉強会を開き、日頃の疑問を共有して解決していく勉強会を開催しました。このような会合によって、個人の技術力アップと人脈形成を進めることを体感して、今年にはさらに面白く身に付く活動に発展するものと希望を持っています。

本年も皆様のご協力とご支援に感謝しながら活動を続けてまいります。宜しくお願い致します。

広報委員会



広報委員長

オリエンタル白石(株) 福田 顕議

JSCA 九州支部会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。広報という名の通り、2019年もJSCA九州支部の魅力を会員その他一般の方々に、広くわかりやすくお知らせしていく所存です。広報委員会最初の仕事は、このメール版新春号の編集と配信です。役員の皆様、お忙しいところ新年早々の執筆ありがとうございました。

今年はJSCAが法人化され30周年となります。様々な企画やイベントが執り行われるかと思えますので、ホームページ<http://jscakyushu.jp/>等で告知していきたいと思えます。皆様ぜひご参加下さい。また、来年は構造デザイン発表会が沖縄で行われる予定です。事前準備や打合せ等、成功へ向けて広報委員会も微力ながらお手伝いさせていただきます。充実した広報のため、皆様に執筆等ご協力頂くこともあるかと思えますが、その際は何卒宜しくお願い申し上げます。

事務局



事務局長

(株)JE 構造設計 恵藤 宏光

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年の総会后から、前任の石松様より事務局長を引き継ぎました。至らぬ点が多々あり、皆様にはご迷惑をおかけしていることがあるかと思いますが、今後共ご協力をお願い申し上げます。

本年度は、JSCA 法人化 30 周年記念事業の九州支部の活動を第 2 回役員会と兼用して 2 日間にわたり開催する予定です。また来年度にはデザイン発表会沖縄も予定されており、大きな行事が目白押しとなっております。これに加えて、各部会・地区会の本年度の活動や、巡回講習会の協力及び開催に向けての計画が活発に行われることが予想され、今以上にそれぞれの垣根を超えた協力体制を整えて、JSCA 九州支部一体となって進行させていく必要があると思います。事務局としても、その活動が滞らず、確実に前に進んでいく様に調整を図りたいと考えています。

建築構造技術者協会の JSCA 九州支部として、会員の皆様、賛助会の皆様のご協力をお願いしつつ、事務局としましても、会員の皆様への円滑な情報伝達を行うべく活動していきたいと思っております。会員外の皆様も活動をご覧になられた方々には、新規会員として入会頂ければ幸いです。

今後とも、会員・支部幹事・地区幹事の皆様・賛助会員の皆様よろしく願いいたします。

地区会報告



北九州地区会幹事

(株)松尾設計 牛尾 忠信

明けましておめでとうございます。

北九州地区会の幹事として4年目となります。例年の「北九州市の産学官が連携した第9回建築構造系講演会」を11月に九州工業大学内、百周年中村記念館にて開催しました。北九州市役所と共催のもと、北九州市の学校関係のご協力を頂き実施しています。北九州市の大学関係の先生及び学生、北九州市、その他一般で総勢130名程となりました。

講演は、北九州市建築指導課より北九州の耐震対策について、次に日本大学名誉教授の新宮先生よりシェル構造の強さの秘密から減衰までと題してご講演頂きました。また、竹中工務店の西村様より、「エンジニアリング技術が拓く建築 中間階免震を有する小倉駅前再開発」と題して、その他多くの情報を交えて、ご講演を頂きました。ご講演頂きました方々、ご参加頂きました方々、たいへん有難うございました。

また、この1年、新たな気持ちで活動したいと思います。今年も昨年同様、「JSCA 北九州地区会の会員数を増やしたい、産学官のほかにも何か」と考えています。

本年も宜しく願いいたします。



佐賀地区会幹事

(有)金子建築設計事務所 金子智洋

新年あけましておめでとうございます。

本年度より佐賀地区幹事を仰せつかりました。南海トラフが連動することによる巨大地震の発生が予想されるなか、3年前の熊本地震後、建築構造のみならず、地震災害について学ぶ機会があったと思います。しかしながら、九州各県においても地震被害だけではなく、台風被害、降雨被害などの災害についても考える必要があります。線状降水帯による集中豪雨被害となった平成29年九州北部豪雨や昨年(平成30年)7月豪雨、また平成30年台風12号・20号・21号など被災後復旧途中に再度被災するなど、九州各県においても直接関係する被害が多く発生しています。そこで、佐賀県内で起こりうる災害について2月に災害対策勉強会「佐賀の災害に備える」を行う予定で、日ごろの業務、一般の人への災害啓発、災害発生時の対応等に役立てたいと思っております。

本年もどうぞ宜しく願い致します。



長崎地区会幹事

(株)オカザキ設計室 岡崎 克喜

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月に“美しい張弦梁のはなし”をテーマに「建築空間構造講演会」を開催し、空間構造設計の第一人者として知られる齋藤公男先生にご講演していただきました。

九州支部の指導のもとに、地区会の若手を中心に準備を進めました、また第二部として開催したパネルディスカッションにも参加し大いに盛り上げてくれました。今回の経験が今後の設計業務に大きく影響を与えるのは間違いないと思います。参加していただいた九州支部会員、官公庁関係者、意匠設計者、施工関係者、大学生の皆様本当にありがとうございました。

11月には地区例会として北九州の溶鉱炉見学会を開催しました、一泊二日として翌日は萩反射炉や萩城下町を散策しました。長崎県鉄構工業会との懇談会も第4回目を開催し年間行事として定着しました。

今年も地区会会員が一丸となって活発に活動していきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。最後に会員の皆様および賛助会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



熊本地区会幹事

(有)かいしん設計室 甲斐 信親

新年あけましておめでとうございます。

最近、建築構造関係にとどまらずいろんな所で「〇〇偽装」という話が出ています。これまで日本の発展を支えてきた技術の根底が覆されている気がします。私たち構造設計者も、倫理観が試される時があると思いますが、襟を正して自分に問いかけ厳格な姿勢で臨む必要があると思います。意匠設計者の考えている空間表現を実現するため、日々技術研鑽に励み、安全安心な建物の実現に励みたいものです。

さて、昨年熊本城復興事業の講演会を企画したところ、構造設計者はもとより意匠設計者や学生その他多くの出席がありました。これからも構造設計専門者向けの企画と共に、構造設計者に限定しない建築関係の講演会等を行い構造設計者のアピールにつなげられたらと考えています。熊本のシンボルである熊本城も復元に向け徐々にですが、もとの美しい姿を取り戻しつつあります。熊本のこれからは構造設計者としてどう関わっていけるか、熊本地区会員のみんなと一緒に考えていきたいと思っています。



大分地区会幹事

阿部設計構造事務所 阿部 知光

あけましておめでとうございます。

昨年1年を振り返ってみますと大分県は特に大きな自然災害も受けず平穏な年であったように思います。今年も自然災害のない平穏な年であって欲しいものです。

さて、昨年の大分地区会の活動ですが、正直言って例年よりも活動が低調であったと言わざるを得ません。私は地区会幹事として昨年の念頭に JSCA 会員の研鑽と会員相互の情報交換を行うことを目標として掲げましたがそれが十分に実行できない年となってしまいました。そこで同じことの繰り返しになりますが今年も昨年の目標を掲げ継続していくべきと考えています。また、来年度は地区会幹事が私から他の会員に交代することも昨年の地区総会で決定しました。来年度は新幹事の下で技術講習会等を多数開催し、そこに多くの会員が参加することが会員の技術力向上の第一歩となると確信します。私も一会員として皆様とともに頑張っていきたいと思います。



宮崎地区会事務局

礼建築設計事務所 岡崎 礼子

あけましておめでとうございます。宮崎地区会より新年のご挨拶をさせていただきます。

昨年は宮崎も気候の変化が激し、豪雨被害等の自然の脅威に振り回さればかりの1年でした。

年号も変わり東京オリンピックも近づいて来ている2019年は変動の1年となるのでしょうか。自然災害も無い、何事も無いような年を過ごせれば良いと思っています。

ここ最近には特に地方の構造設計事務所の仕事においても法律・建築材料・施工方法等をいち早く情報を得て設計に反映させられないと工期の遅延やデザインの変更等のトラブルになりかねません。構造設計者としての多様性が求められていると感じています。地区会においても毎年度ごとに研修・講演・見学会を企画し会員の皆様の技術の向上に努めていますが、なかなか現状のスピードに追い付いていけないようです。又、地区会員の高齢化やリタイヤ及び若手会員の不足がこれからの地区会活動においても大きな問題となってゆくことが見えていますので、他の建築団体との連携を積極的に図り、情報交換の場として大いに活用し、魅力ある研修の場としての地区会が機能していくことで構造設計者の育成、技術の向上を目指す必要があると思っています。

地区会事務局を受けてから早4年目となりました。皆様のご助力等で続けていられます。今年も1,2月に例会・見学会を予定しており又、来年度の活動内容について役員一同協議し、会員皆様の研鑽に寄与するべく研修会及び見学会等を企画する予定です。

今後も役員一同、気を引き締めて会員の皆様と共に地区会の活動を頑張っていきます。

九州支部の皆様、今年もご指導よろしくお願いたします。



鹿兒島地区会幹事

(有)中村設計・補償コンサルタント事務所 中村 数喜

新年のご挨拶を申し上げます。

地震による建物の公的解体作業が終了したと熊本日日新聞 2018.12.29 日には報じられていました。過ぎゆく時の速さに驚いている昨今です。

鹿兒島地区会幹事ということで慣れない役割の中、去年はJSCA九州の役員会を鹿兒島で開催させていただきました。おかげさまで役員、会員の皆様の友情と協力のもと有意義な楽しい支部役員会を開催できましたこと感謝しております。1年ごとの各地区会での支部役員会の意義の大きさを改めて感じている次第です。支部会員の活動ややる気が伝わってきます。ことに、建築特に構造を志す仲間として、親睦や互いのスキル やる気の向上に大いに貢献しているものと感じています。

鹿兒島地区会は互いが協力して元気な活動をしています。本年2月には会員の努力、協力により“風テラス 阿久根”という建物の見学会と講演会を開催します。九州支部会員の大勢の参加をお願いする次第です。新年もより良き飛翔の年でありますように、九州支部会員の皆様のご活躍を祈念しつつ新年のご挨拶といたします。



沖縄地区会幹事

株式会社 ケイ・ツー設計 小波津 和也

明けましておめでとうございます。

2019年が皆様にとって真に良い年となることを心より祈念しています。昨年における活動事業は、自己研鑽事業として①鉄筋プレハブ工法による省力化の公開実験見学会、②熊本地震柱脚工法被害講習会、③PCスラブの工場見学・現場見学会、④振動解析セミナー「告示免震と時刻歴応答解析の比較」⑤南城市庁舎等複合施設見学会、⑥深層混合地盤改良工法の講習会、⑦JSCA沖縄地区会デザイン発表会、若手技術者育成事業として、琉球大学及び沖縄職業能力開発大学校学生を対象に「西村 章講演会&パネルディスカッション」と講習会などを行いました。自己研鑽事業が多くを占めています。今年は、新たな指摘事項を含む適判指摘事項勉強会を開催し建築確認申請に係る作業時間を軽減とする講習会の開催、又、一昨年から開催している振動解析セミナーを継続的にを行い、地区会全体のスキルアップを図りたいと思います。